

ミレアのスカンディア生命買収を慶び、今後を期待する

■ミレアの後ろ盾を得たVUL

変額ユニバーサル保険という画期的な新商品のレポート（03年10月24日・11月1日号）後、わずか2ヵ月でこのような「祝詞」を述べるようになるとは、夢にも考えなかった。各新聞などで既報の通り、ミレアグループがスウェーデン・スカンディアグループの日本法人であるスカンディア生命保険を買収することになった。奇しくも朝日生命保険のミレア参加が破談となったちょうど1年後の今月末、まず東京海上の100%子会社とし、4月以降ミレアHDの傘下に収める予定だ。

幾つかの留保付きではあるが、この買収を慶ぶとともに、今後の展開を見守りつつ引き続き応援して行きたい。まずスカンディアグループは、よほどキャッシュフローが悪化していたのだと思われる。昨年12月8日付け日経金融新聞の同グループ幹部の金銭疑惑問題を報じた記事の中で、ITバブル崩壊後の業績悪化に伴い、北欧以外の事業の分離・売却の可能性が指摘されていたが、事実その通りだったわけだ。

一方、ミレアHDにとっては「変額」商品分野が大きな穴だった。資本金150億円で昨年9月中旬の業績報告によれば12億円の赤字を出している日本法人に200億円を注ぎ込んでも買収する欲求があったということである。買収公表の翌日（12月26日）午前、ミレアの石原社長は

東京・広尾のスカンディア生命に乗り込み、スカンディアの

- ・ 事業体制の非変更（ミレアHDの傘下での、あんしん生命との並立）
- ・ 従業員の身分保障

に言及するとともに、変額ユニバーサル保険（VUL）に最も関心を持っていると述べたとのことだ。額面通りに受けとめれば、VULはミレアという力強い後ろ盾を得たわけであり、慶賀すべき話であると思う。ちなみに既契約に関しての変更は別がない。

■輝かしい未来への「揺籃」となれ

さて、筆者の今後の何よりの関心事は、スカンディア生命の独自性をミレアHDが維持しかつ発展させられるかどうかである。具体的に言えば、当面は、スカンディア生命がこれまで展開してきた、

- ・ ファンド選別体制の維持
- ・ コストオープン姿勢の保持

ということに尽きる。この2点を軸に据えながら、変額ユニバーサル保険のおそらくは急速ではない普及に、じっくり取り組むことができるかどうかだ。

この商品の普及には、何よりも利用者の十分な理解と、これに基づく自発的な設計・メンテナンスの継続が欠かせない。すなわち、従来の国内大手のように、パッケージタイプの商品を力まかせに販売・売りきりにするのは大きく異なり、販売者

には説明・設計能力が不可欠だ。また、積立金部分を担うファンドの選定・管理面においては、利用者の自己責任意識の発露・具現を辛抱強く待たねばならない。しかも、商品内容は日々変容するから、利用者の継続的な見直しを喚起し続ける必要がある。

なおかつ、スカンディア生命の従来の事業戦略を踏襲するとすれば、利用コストの低廉性と全面開示性を維持しつつ、販売者は他の有名外資に比して見劣りする代理店手数料に甘んじなければならない。さらに、安易にミレア系列のファンドを押し込むようなことがあっては元も子もなくしてしまう可能性がある。上述の「幾つかの留保」の内容は、おおむねこのようなものだ。

朗報を一つ。スカンディア生命のマーケティング関係者によれば、昨年11月4日発売後の変額ユニバーサルの契約状況は、4年半前の変額年金発売時を遥かに凌駕しており、かつ買収騒ぎの中でも止まっていないとのことだ。ただし、「売っている」代理店が偏在しているという特徴付きである。

なお本稿の最後に、一昨年秋（霜山前社長退任など）に引き続き大きな動揺に見舞われたスカンディア生命の方々のご心労をねぎらいたいと思う。願わくは今回の動きが、関係者と逸品VULの双方にとって、輝かしい未来への「揺籃」となりますように。

（クルー 野田 眞）